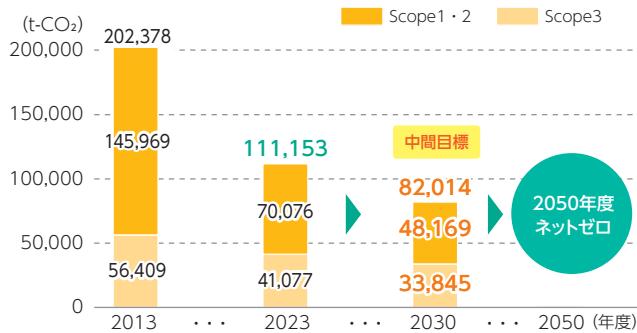


指標と目標

事業者・機関投資家の双方の立場から排出するCO₂排出量をモニタリングし、取組みの進捗状況を把握しています。なお、事業者について、本社ビル等の使用電力の再生可能エネルギー導入が進んだことにより、2030年度のScope1・2の削減目標を△67%に引き上げました。

● 事業者としてのCO₂排出量

(いずれも2013年度比。Scope1・2は当社グループ、Scope3は明治安田単体)

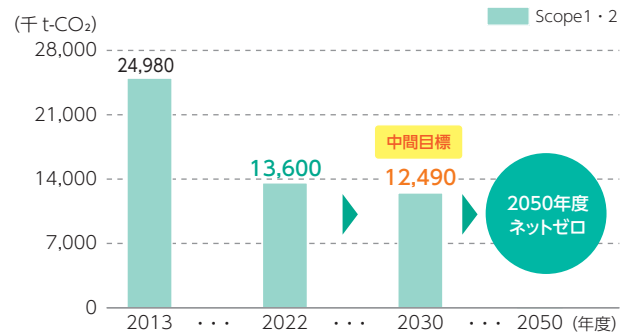


(注5)

	2023年度実績	2030年度目標	2050年度目標
Scope1・2 (注1)	△52%	△67%	△100% 排出量 ネットゼロを実現
Scope3 (注2)	△27%	△40%	

● 機関投資家としてのCO₂排出量

(いずれも2013年度比。明治安田単体)



(注5)

	2022年度実績	2030年度目標	2050年度目標
投融資先からの排出 (Scope1・2) (注3) (注4)	△46%	△50%	△100% 排出量 ネットゼロを実現

● 再生可能エネルギー導入比率

目標：2040年度までに国内において使用する電力を100%再生可能エネルギー化（2023年度実績：28%）

(注1) Scope1は、当社での燃料の使用等による直接排出。Scope2は、当社で購入した電気の使用等による間接排出。対象範囲は、当社、国内の連結子会社の明治安田損害保険株式会社、明治安田アセットマネジメント株式会社および明治安田システム・テクノロジー株式会社ならびに米国のスタンコープ・ファイナンシャル・グループ株式会社。スタンコープ社分については推計値

(注2) Scope3は、サプライチェーンにおける他社の間接排出。重要性等に鑑み、6つのカテゴリー(1,3,4,5,6,7)に限定して算出しており、カテゴリー 15 (投資)は「投融資先による排出」として、別途管理

(注3) 対象は、国内上場企業の株式・社債・融資

(注4) 機関投資家は、2024年4月22日時点で取得可能な2022年度実績のデータにより算出

(注5) 事業者および機関投資家としてのCO₂排出量実績・計画は、算出基準や対象範囲の変更、投融資先の情報開示や計画の変更等により変動することがあります

自然環境保護・生物多様性の保全に向けた取組み

● 「明治安田×Jリーグの森～未来をつむぐ森～」

人々の暮らしを支え、豊かな恵みをもたらす日本の森林を未来世代につないでいくため、Jリーグとの協働で森林を再生・保全する取組みを行なっています。まずは神奈川県と山梨県の2カ所で開催し、今後、活動地域を広げていく予定です。



山梨県での植樹イベントの様子

● プラスチックの排出抑制、再資源化等の取組み

事業活動におけるプラスチック製品の使用を抑制するとともに、環境配慮型什器の導入などのプラスチックの再資源化に寄与する取組みを推進しています。



再生可能な紙製など環境に配慮した素材を使用したファイル



海洋プラスチックごみ再生樹脂を使用したオフィスチェア



取組みの詳細は当社ホームページに開示しています。

<https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/society/environment.html>

